教育部会用自己点検・評価シート（様式１）

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：人間形成と思想
部会長名：大坪庸介
作成者名：大坪庸介

概要（2000 字）

実施体制：平成 26（2014）年度の本教育部会は、大学教育推進機構 2 名、人文学研究科 10 名、国際文化学研究科 4 名、人間発達環境学研究科 17 名、保健学研究科 4 名、海事科学研究科 1 名、の計 38 名から構成され、教育部会長 1 名（人文学研究科）、幹事 2 名（人間発達環境学研究科、国際文化学研究科）が世話役になり、運営された。

開講科目：教養原論として「哲学」（４コマ)、「行為と規範」（３コマ)、「科学技術と倫理」（２コマ)、「論理学」（２コマ)、「心理学」（４コマ)、「心と行動」（６コマ)、「教育学」（３コマ)、「教育と人間形成」（３コマ)の 8 科目 27 コマ，共通専門基礎科目として「倫理学 S」（２コマ)，「心理学 S」（２コマ)の２科目４コマ，全体で 10 科目 31 コマが開講された。

実施状況：「哲学」は人文学研究科と国際文化学研究科の教員により、「行為と規範」は国際文化学研究科の教員により、「科学技術と倫理」は人文学研究科の教員と非常勤講師により、「心理学」「心と行動」「心理学 S」は大学教育推進機構、国際文化学研究科、人間発達環境学研究科、保健学研究科の教員により、「教育学」は人間発達環境学研究科の教員により、「教育と人間形成」は大学教育推進機構の教員及び非常勤講師により、「論理学」「論理学 S」は非常勤講師により行われた。

教育の現状とその評価：

①教育内容：「人間形成」に関わる問題を多角的に取り上げ，人間形成のありようと思想の意義について，①哲学・思想領域（論理学・行為と規範)，②心理学領域（心理学・心と行動)，③教育学領域（教育学・教育と人間形成)，④科学倫理領域（科学技術と規範）から学習できるように教育課程が編成されており，学習目標に沿った講義を提供していると評価できる。また，４年前より現代の科学技術社会における倫理性の意義を深める目的で開講された「科学技術と倫理」は開講時より各授業とも 200 名程度の受講生を得ており，本教育部会担当授業科目として定着してきた。また，３年前より設定された「倫理学 S」「心理学 S」も教養原論の「論理学」「心理学」と差異化がなされ，専門基礎科目として適切な授業内容を提供している。

②教育方法：**懸案であった**クラス規模については，最大で 200 名がほぼ実現されたが，まだいくつかの問題が残されている。ひとつは，抽選が必要なほど学習ニーズの高い科目に対して，抽選にもれた学生のモチベーションを維持するためにどのような補償がありうるか，本当に学習したい者が学べる仕組み作りがさらなる検討が必要であろう。２つめは，クラス規模が原則 200 名以下になったとはいえ，各期，100 名以上，150 名以上のクラスが相当数残ある。例年指摘してきたように，こうしたことは本教育部会担当授業科目への関心の高さを示すものであるが，100 名以上の受講生に対するきめ細かい対応は極めて難しいと言わざるをえない。これまでにも各担当者においては，ＶＴＲ，ＤＶＤ，パワーポイント等の視聴覚教材の使用，リアクションペーパーやミニレポートとそれに対するフィーバックなど授業の質保証のための努力がなされているが，一方で遅刻・早退者，私語，スマートフォンの使用，他教科の予習など当該授業外活動，居眠りなどに対しては，厳しく注意を与えることや授業方法の工夫といった教員の努力だけは解決できないこともある。たとえば，ＴＡを大規模授業に重点配分し，机間巡視などによる個別指導なども検討すべきであろう。

③授業成果：学生の授業評価では全般的に肯定的回答がなされており、授業中のリアク

ションペーパーなど提出物等から判断しても、おおむね教育の成果や効果があがっているといえる。しかしながら，授業評価アンケートについて，特に 100 人を超える授業では 10%に満たない回答者からの回答結果をどのように解釈するか慎重に吟味する必要があろう。また，実現の難しい悉皆調査だけでなく，標本調査を用いるなど授業者の努力が適切に評価される方法も考慮されるべきであろう。

まとめと今後の課題

まず，本教育部会担当授業科目には，一部で大規模クラスにならざるを得ない状況にありながらも，各担当者の工夫と努力により，全般的に各科目の目的に応じた適切な授業がなされている。また，時代的要請に応える授業科目として設定された「科学技術と倫理」は，現代的かつ実際的な内容を有した授業として受講生から評価を得ている。一方，大規模クラスの授業では，担当者の努力や工夫だけでは解決できない問題もあり，またＴＡの重点配分，出席管理や成績管理の新たなシステム導入など担当者の負担を軽減することも重要である。

項目・観点ごとの記述

基準５　教育内容及び方法

５－１【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ，それに基づいて教育課程が体系的に編成されており，その内容，水準が授与される学位名において適切であること。】

５－１－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮しているか。

観点に係る状況（150 字以上） 教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮されたカリキュラムになっている。例えば、各授業で学生からのコメントに対する Newsletter の作成、今日的な内容を扱う映像資料、パワーポイントスライドの利用、なるべく新しい教科書を使用するなどの工夫がなされている。また、授業中の配布資料も学生のニーズを満たすものである。
根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、シラバス、授業中の配布資料、パワーポイントスライドなど

５－２【教育課程を展開するにふさわしい授業形態，学習指導法等が整備されていること。】

５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150 字以上） 教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスを適切に保つような工夫をした教育内容、学習指導法が採用されている。人間形成と思想部会が提供する科目は基本的に講義科目であり、その多くが 100 人を超える大教室科目の

ため、演習や実験・実習等を取り入れることは難しい。それを補うべく、多くの教員が小テスト、リアクションペーパー、簡単なグループワーク課題などの工夫をしている。
根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、シラバス、授業中の配布資料、回収した小テストなど

５－２－②：　単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100 字以上） 単位の実質化への配慮として、多くの教員が小テストの実施、授業後のクイズの実施を通じて学生の理解を確認しながら講義を行っている。このような工夫により、それぞれの講義で各学生が講義の達成目標に到達しているかどうかがはかられ、単位の実質化がなされている。
根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、シラバス、回収した小テストなど

５－２－③：　適切なシラバスが作成され，活用されているか。

観点に係る状況（50 字以上） 人間形成と思想部会の講義については、いずれにおいても講義内容を反映したシラバスが作成され、活用されている。
根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、シラバス

５－２－④：　基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100 字以上） いずれの講義においてもオフィスアワーがシラバスに明記されており、講義についていくことに困難を感じた学生はいつでも担当教員に連絡をとり、配慮を受けることができる状態であった。また、授業後の感想やコメントなどを通じて、配慮の必要性の把握に努めた。
根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、シラバス、回収したコメントなど

５－３【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ，それに照らして，成績評価や単位認定，卒業認定が適切に実施され，有効なものになっていること。】

５－３－②：　成績評価基準が策定され，学生に周知されており，その基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100 字以上） 人間形成と思想部会においては、科目ごとに内容に即した成績評価基準が策定され，それがシラバスを通じて学生に周知されている。授業中に実施する小テストや課題、期末試験など結果により、周知された基準に即して適切に成績評価，単位認定が適切に実施されている。
根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、シラバス、成績分布

５－３－③：　成績評価等の客観性，厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100 字以上） 人間形成と思想部会においては、上記５－３－②の通りに成績評価の基準を策定し、単位認定を行っている。その客観性、厳格性を担保するために、小テストや期末試験は不正行為がないように厳正になされ、採点も厳密になされている。
根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、成績分布

<u>基準６　学習成果</u>

６－１【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして，学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について，学習成果が上がっていること。】

６－１－②：　学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して，学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100 字以上） 学生による授業評価の結果から判断して，各科目における学習成果が上がっていると考えられる。また、学生から独自にコメントを受けつけている教員の授業でも、講義に対する理解度を含めた好意的な感想がよせられている。
根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、授業への感想

<u>基準７　施設・設備及び学生支援</u>

７－１【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され，有効に活用されていること。】

７－１－④：　自主的学習環境が十分に整備され，効果的に利用されているか。

観点に係る状況（50 字以上） 神戸大学として自主的学習環境が十分に整備されており，学生は自学自習にその環境を効果的に利用している。

根拠資料 全学で把握している自学自習スペース利用状況等

７－２【学生への履修指導が適切に行われていること。また，学習や課外活動等に関する相談・助言，支援が適切に行われていること。】

７－２－①：　授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

観点に係る状況（100 字以上） 人間形成と思想部会においては、第 1 回目の講義の中で、シラバスの内容を含め、当該講義の内容、スケジュール、講義で課される試験や課題の内容、成績評価基準を学生に伝達しており、これがガイダンスとして機能している。
根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、配布資料、授業で持ちたいパワーポイントスライド

７－２－②：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。
また，特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり，必要に応じて学習支援が行われているか。

観点に係る状況（100 字以上） いずれの講義においてもオフィスアワーがシラバスに明記されており、講義についていくことに困難を感じた学生はいつでも担当教員に連絡をとることができた。このことを周知することにより学生のニーズが適切に把握されていた。
根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、シラバス